

プロフィール

コスタリカの国連平和大学院を卒業後（国際法と人権を専攻）、子供の人権と教育に興味を持っていたことから、メキシコで教師として勤務。先住民の村や都市部の学校で英語教師として勤務後、JICA コロンビア事務所でプログラムオフィサーとして平和構築プログラムのうち、主に国内避難民や投降兵士家族を対象としたプロジェクトの計画、運営、評価等に携わる。本事業に参加し、UNHCR ルワンダ事務所に Associate Reintegration Officer として派遣される。主にルワンダ難民の帰還後の社会復帰支援プログラムを担当。海外研修終了後は 1 年契約を更新し、帰還民支援以外でも緊急援助時の難民認定・登録、難民への教育支援、資金調達のためのプロポーザルやレポート作成、ドナー対応等幅広く活動。今後も UNHCR で Associate Programme Officer として勤務予定。

1. 平和構築人材育成事業に応募した理由を教えてください。

小さい頃から世界地図を見るのが好きで、世界の異なる言語や文化、習慣などに興味を持ち、漠然と「海外」に対して憧れを抱いていました。そんな時、小学校の教科書に載っていた干ばつや貧困に苦しむアフリカの子供の写真を見たことで、自分と全く異なる環境にいる子供たちの存在を知ったことが、私の国際協力や人道、開発支援に興味を持つようになったきっかけです。「なぜ紛争は起こるのか?」、「どうしたら解決できるのか?」そんな単純な疑問を抱き、いつからか平和構築、紛争解決に興味を持つようになり、これまで平和構築の分野で海外で経験を積んできました。初めて知人から本事業について勧められた時には既に応募が締め切られており、1 年越しの思いで準備を進め、応募しました。

将来のキャリアを考える上で、本事業に参加を決めた理由は 2 つあります。1 つ目は、大学院で国際法や人権、平和学についての授業を受講したものの、アカデミックな平和構築の理論だけでなく、実際に国連機関が行っている平和構築分野の活動について学びたいと思ったからです。本事業の講師の方々は、既にアフリカやアジア、中東の紛争地域における国連や国際機関、NGO での勤務経験があり、現場に基づいた授業が受講できると思いました。2 つ目は、主に人道支援の分野で実際に現場での経験を積みたいと思ったからです。既に JICA コロンビア事務所で平和構築分野での開発支援に関わっていましたが、更にフィールドでの人道支援、主に難民支援に携わりたいと思ったことから、UNV として国連機関で海外経験が積めることは、UNHCR 等国連機関の果たす役割、実際にフィールドをベースとした UNHCR のオペレーションについて理解し、今後のキャリアを考える上で必要であると考えていました。

2. 国内研修の感想は?

アカデミックな平和構築における理論から、現場に基づいたプラクティカルな講義まで、講義は内容に富んでいて、新しい知識を得ながら、平和構築の重要性について再認識するという観点からは、とても充実した国内研修でした。講義はほとんどがグループワークでしたので、他

の研修員と共に生活し、また授業でも一緒にグループワークを実施するという経験は、その後海外研修において、文化の異なる同僚との共同生活や、勤務することに大きく繋がったと思っています。また、実際に UNHCR ルワンダ事務所で勤務する中で、国内研修で学んだ効果的なプロポーザル作成、難民キャンプの立ち上げ、また各国連機関や政府、NGO との緊急援助のためのコーディネーションに関する講義が役立ちました。

3. 海外実務研修での活動内容・感想を教えてください。



【緊急援助時の難民認定・登録業務】

私は Associate Reintegration Officer として、ルワンダのキガリ事務所に派遣されました。主な活動は、ルワンダ政府及び他の国連機関（UNDP、UNICEF、WFP、FAO、UN Habitat）と合同で実施している「ルワンダ帰還民に対する持続的帰還・社会復帰プログラム」の UNHCR 担当として本プログラムの調整、計画、運営、及びフォローアップをすることでした。1994年のジェノサイドを機にルワンダ人の多くが国外へ逃れ、19年以上経過した今でも、近隣国から祖国へ帰還

する難民は毎年1万人近くいます。19年という月日が経過したことで、コミュニティに戻ったにも関わらず、家や土地を失った、経済的困難から子供の制服や文房具が払えない、手に職が無い、などの問題を抱えた帰還民がほとんどで、彼らに対して、行政、教育、医療、住居、生計向上、食糧の分野において支援をするのが目的です。日々の業務は、各ステークホルダーと調整しながら具体的な活動及び予算の計画策定、資金調達のためのプロポーザルやレポート作成、ニーズ分析のための帰還民へのインタビューの実施、また広報活動など幅広く携わりました。ルワンダは One UN のパイロット国の1つとして、各国連機関と協力してプログラムを実施することに力を入れているため、本プログラムを通し、他の国連機関との調整業務経験を積むことができ、また、プログラム／プロジェクトの計画策定から資金調達、運営までプロジェクトサイクルの初期の段階から携われたことも良かったと思っています。また、ルワンダ帰還民支援だけでなく、緊急時における難民認定・登録や、新しい難民キャンプ立ち上げのための資金調達に係るプロポーザル作成等、難民支援にも携われた経験は、UNHCR のオペレーション全体を理解する上で非常にプラスになったと思います。

4. 就職先での活動について教えてください。

海外研修1年後は契約を更新し、その後も UNHCR ルワンダ事務所にて緊急援助時における難民支援から、帰還民への社会復帰支援まで幅広く活動する機会を得ました。具体的な活動内容は下記の通りです。

- 引き続き「ルワンダ帰還民に対する持続的帰還・社会復帰プログラム」における UNHCR

担当者として、実施機関である他国連機関（UNDP、UNICEF、WFP、FAO、UN Habitat）、災害管理及び難民総務省及び地方自治体との間で調整会議を企画し、プログラム活動、予算計画の策定に携わり、プログラムのプロポーザルやレポートを作成。

- 2012 年 4 月以降のコンゴ民主共和国東部からの難民に対する緊急援助のため、日本政府や欧州委員会人道援助局（ECHO）、国連中央緊急対応基金（CERF）へ予算申請を目的としたプロポーザルの作成に携わる。主な活動内容としては、新しい難民キャンプ立ち上げに係る医療、栄養、環境、物資調達、WASH（水、保健、衛生）、及び難民保護強化に係る情報をフィールドオフィスや各分野のテクニカルスタッフから収集し、プロポーザルを作成。
- 教育担当として、教育分野の年間予算、活動計画の策定、資金調達のためのプロポーザルやレポートの作成、奨学金制度を利用した難民支援の運営、及び、難民キャンプにおける学校教育支援のため、UNICEF や教育省、NGO と調整し、活動の運営、フォローアップを実施。
- UNHCR ルワンダオペレーションに関する中間、年次報告書や Global Appeal 等の対外広報作成のため、フィールドオフィスや担当ユニットから情報収集を行い、報告書の取りまとめ。
- UNIQLO-UNHCR 間のグローバルパートナーシップによる難民支援活動を通じて、難民及び帰還民へ約 10 万着の服の配布を実施。



【UNIQLO の服を着た子供たち】

5. 就職先での感想は？一番印象に残っていることは？

ルワンダでの勤務経験の中で、印象に残ったことは2つあります。1つ目は、UNHCR の裨益者である難民や帰還民一人一人と接する機会が増えるにつれ、彼らの抱える問題を理解しながらも、自分の出来ること、出来ないことを痛感した時です。特に、コンゴ（民）からの難民認定・登録の際には、世帯ごとにインタビューを実施しましたが、その中でレイプをされ、HIV/AIDS に感染した女性、紛争で家族を失ったり、離ればなれになった子供たち、また、暴力の被害者として身体的、精神的に大きな傷を負った大人や子供たちに出会いました。彼ら一人一人の話を聞く度に、コンゴ（民）で起こっている紛争の悲惨さを実感しながら、難民として逃れてきた人々を保護することは出来ても、隣の国で起こっている紛争を解決し、彼らを1日でも早く祖国に返すことが出来ないことに無力さを感じたこともありました。それでも、UNHCR のマンデートである、1日でも早く彼ら難民が祖国に帰る日までルワンダ国内で彼らの保護、支援に携われることにやりがいを持って活動に携わりました。2つ目は、私の勤務していたオフィスでもフィールドでも、同僚や他の国連機関職員、またルワンダ人からも、「マダム緒方を知っている

か？」と、前国連難民高等弁務官である緒方貞子さんの話を聞かされることがよくありました。彼女は1994年のジェノサイド後のルワンダ難民やコンゴ難民に対し、高等弁務官としてフィールドに足を運び、彼らの保護、支援に大きく貢献した人物として、ルワンダで知られている日本人女性です。難民キャンプ内で「オガタサダコ」と名付けられた難民少女も存在するくらいです。ルワンダのフィールドで日本人女性の活躍を聞き、難民保護に対する緒方さんの熱い思いや冷静な判断力、決断力について実感し、自分自身に対して励みとなる出来事でした。

6. 今後のキャリア・プランを教えてください。

今後も UNHCR で Associate Programme Officer として勤務する予定です。限りある資金の中で、UNHCR の裨益者に対し、どのように効率的、効果的にプロジェクトを運営していくか、政府機関や国連機関、NGO 等のステークホルダーと協力しながら活動できるか、現場のニーズに基づいた援助をどれだけ実施できるか、といった点に注意しながら活動に取り組みたいですと思っています。長期的に UNHCR で勤務し、様々な国のオペレーションに携わり、現場での経験と積みたいですと思っています。また、将来的には人道支援と同時に、難民や国内避難民を生み出す紛争自



【国連事務総長、世銀総裁のルワンダ訪問時に事務所のスタッフと撮影】

体にも興味がありますので、紛争が起こらないよう働きかける紛争予防や紛争調停、紛争解決などにも関わっていければと思っています。



【新しく立ち上げた難民キャンプの子供たち】



【日本政府の援助を受けて WFP よりポリッジを配給された子供たち】

7. 平和構築人材育成事業への参加を考えている方にメッセージをお願いします。

「平和構築」と聞いて、大学や大学院で平和学や人権、開発学などを専攻した人のみが活躍できる分野だと思っている方が多いかもしれませんが、実際に紛争地域や復興支援の場で活動する専門家の中には、医療、教育、水、環境、食糧等様々なバックグラウンドを持った人がいます。実際、私の同期の中には専門性が高く、様々なバックグラウンドを持った研修員ばかりで、講師はもちろんのこと、同期の方々の経験や知識から学んだことも多々ありました。経験豊富な講師の方から講義を受け、更に国連機関で1年間海外研修に参加できるプログラムはなかなか無いのではないかと考えています。私自身、本事業に参加したことで、平和構築分野におけるネットワークが広がり、現場での経験を通して UNHCR の活動を理解し、今後のキャリアアップに大きく繋がったと思っています。将来、平和構築の分野で働きたい、国連機関での現場経験を積みたい、と思っている方には、ぜひ本事業に応募することをお勧めします。

(了)